

# K2019 プレビュー報告

小松技術士事務所 所長 小松 道男

## K2019 の概要

K2019 (国際プラスチック・ゴム専門展) が、2019年10月16日から23日まで、ドイツのメッセ・デュッセルドルフ (デュッセルドルフ市) で開催される。その事前説明会 (K プレビュー) が7月1日~3日に同会場で開催された。K は来場者数 24 万人を誇る世界最大規模のプラスチック・ゴム専門展で、3年ごとに定期開催されている。筆者は今回も日本代表として招待され、欧州プラスチック業界の首脳や出展者と意見交換を行った。

K2019 は、展示面積 176,886 m<sup>2</sup> (+2,971 m<sup>2</sup>) と前回は上回る規模で、出展者は 3,157 社。日本からの出展は 32 社 (+2 社)、中国 (香港含む) からの出展は 340 社 (-61 社)。中国経済の減速傾向は出展の状況にも現れている。

主催者のメッセ・デュッセルドルフは、「イノベーションと国際ビジネスのけん引力」を目標に、以下のコンセプトで出展を企画する。

- ・持続的な開発 (Sustainable Development) と循環型経済 (Circular Economy) のためのプラスチック
- ・インダストリー 4.0 による付加価値のデジタル化
- ・システムインテグレーション: 素材、プロセス、デザインを通じた機能
- ・プラスチック産業が若き専門家を獲得するための戦略的広報  
具体的には、以下のプログラムを目玉としている。
- ・特別プレゼンテーション「Plastics shape the future (プラスチックが未来をつくる)」
- ・研究・教育フォーラム「サイエンス キャンパス」
- ・バイオプラスチック ビジネス ブレックファスト
- ・ラバーストリートと「ラバー&TPE ポケットガイド」

## 欧州プラスチック産業界の動向

K プレビューでは、欧州プラスチック産業界のり

ーダーによるラウンドテーブルトークが開かれ、産業界を取り巻く情勢について各リーダーが意見を述べ、会場の記者たちとのディスカッションを行った。K2019 出展者委員会委員長を務める Ulrich Reichenhäuser 氏 [ドイツプラスチック・ゴム機械協会 (VDMA) 会長] は、プラスチック包装ごみによる深刻な環境問題を憂慮すると表明した。一方でイノベーションの絶好の機会でもあり、欧州プラスチック産業界としては環境問題の解決へ積極的に取り組んでいかねばならないと述べた。また、軽量化技術、新素材開発、システム化技術、インダストリー 4.0 の適用、若年世代の育成などを通じてイノベーションによる成長が可能であるとの考えも表明した。

6月28日~29日に開催されたG20大阪サミットでは、首脳宣言に海洋プラスチックごみ対策に関する合意形成が盛り込まれ、2050年までに海洋プラスチックごみをゼロにする目標が「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」として世界で共有された。その直後にKプレビューが開かれ、欧州の今後のプラスチック産業の方向性について発信された。

筆者は、大阪ブルー・オーシャン・ビジョンに関し、(一社)日本合成樹脂技術協会理事として考えを質した。Dr. Rüdiger Baunemann は、マイクロプラスチックによる海洋汚染に関しサーキュラー・エコノミー (循環型経済) の実現を目指す重要性を認識、リサイクル技術の向上、薄肉化などによる減容化推進、生分解性プラスチックの適用など廃棄物管理 (Waste Management) をきちんと実施すべきとの考えを表明した。また、プラスチック産業界のみならず、政治家や消費者を巻き込んで解決策を模索すべきであるとの考えも示した。筆者は、G20大阪サミットで世界の政治リーダーが海洋プラスチックごみ削減の歴史的合意を形成したことを重要視し、政治家や行政機関が妥当な規制の制定などを今後速やかに実施していく姿勢が必要との意見を返した。